

一般社団法人奈良県臨床心理士会 第 95 回相互研修会のご案内

新緑のまぶしい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、表記の研修会を下記の要領で開催いたします。この研修が有意義なものとなりますよう、多数のご参加をお待ちしています。

記

1. テーマ

『育ちによりそうということ』

2. 趣 旨

こども家庭庁が令和 5 年 4 月に発足され、こどもの育ちを総合的に支える“こどもまんなか社会”の実現を目指して、12 月にはこども基本法に基づく『こども大綱』が閣議決定されました。

このような社会全体でこどもの育ちを複合的に支えようという方針の中で、実際の“こどもの発達支援”はどのようにになっているのでしょうか。本当に何が必要かの見立てをする前に、発達検査の実施や医療機関への受診によって、早期に診断をつけて成長の道筋と支援方法を早々に固めることになってはいないでしょうか。

そういった現状から奈良県では奈良県臨床心理士会に委託して、昨年度より「こどもの発達に寄り添う体制構築事業」を始めました。この事業は、こどもとその家族が自信をもってこどもの育ちや人生に向かっていけるような支援体制を整えるためのものです。

今回の研修会では奈良県障害福祉課ご担当者から、事業の内容と心理士に期待することをお話いただくとともに、新版 K 式発達検査の開発者の一人であり、寄り添い事業の統括相談員である大久保純一郎先生（こども・家庭・福祉部会/元京都橘大学教授）にご講演をお願いしたいと存じます。

検査の数値だけを見るのではなく、検査から何を読み取り、どう日々の支援、生活につなげていくか、などをうかがいながら、関係性の中でともに生き、育ちに寄り添い、支えるために心理士として何ができるかを考えていく機会にしたいと考えています。

なお、研修会終了後には総会がございます。当会の活動をともに考えるためにぜひご参加ください。

3. 期 日 令和 7 年 6 月 1 日（日）10 時 00 分～16 時 00 分

4. 会 場 帝塚山大学 学園前キャンパス 16 号館 16903 教室
奈良市学園前南 3-1-3
(近鉄学園前駅下車 南改札口 徒歩約 1 分)
※校内に駐車スペースはございません。

※開催要項等に変更のある場合は、メールおよび会 HP にてお知らせいたします。

5. 日程および内容（予定）

9:30～	受付
10:00～10:05	開会・主旨説明
10:00～10:05	会長挨拶 石田陽彦 先生
10:05～11:40	講演Ⅰ「よりそい事業の内容と心理士に期待すること」 講師：奈良県障害福祉課 ご担当者 講演Ⅱ「検査からわかること、わからないこと、そして結果を活かすこと」 講師：大久保純一郎 先生 (当会役員、元京都橘大学教授、発達よりそい事業統括相談員) 当会こども・家庭・福祉部会担当役員。K式発達検査の開発にたずさわるとともに、発達福祉の分野で長く活躍され、こどもの育ちをどう捉え、支援者にどのように働きかけるか、多くの実践を重ねられています。 全体司会：森田恭史先生（当会研修委員） ※適宜、休憩含む
11:40～12:00	質疑応答
12:00～13:00	昼食休憩
13:00～14:00	話題提供「訪問から見えてくる市町村の現状と可能性（仮）」 話題提供者：宿谷仁美先生 (当会役員、訪問相談員、あやめ池カウンセリングオフィス) ※質疑応答含む
14:00～14:10	休憩
14:10～14:40	パネルディスカッション『育ちによりそうということ』 パネリスト：奈良県障害福祉課 ご担当者 大久保純一郎 先生 宿谷仁美 先生
14:40～15:10	全体討議
15:10～15:20	事務局連絡
15:20～16:00	部会活動（休憩・移動時間含む）
16:00～	総 会

6. 参加資格 (一社) 奈良県臨床心理士会の会員（正会員・準会員・賛助会員）
および他都道府県臨床心理士会会員等

7. 参加費 正会員：無料 準会員：1000 円 その他臨床心理士：3000 円

8. 参加申込 人数把握のため、下記の Google フォームより事前申し込みをお願いいたします。

申込先 <https://forms.gle/D1RAbqsST1kNT3c1A>

申込締切：令和 7 年 5 月 29 日（木）

※当日参加も可能です。

※問合せ先：研修委員会 nsccp.kensyu@gmail.com



9. その他

(1) 研修ポイントについて：本研修会は(財)日本臨床心理士資格認定協会の定める教育研修規定に基づく研修会です。講師等は4ポイント、受講者は2ポイント（全日参加）を申請予定。

(2) 年会費のお支払いについて：なるべく銀行振込でお願いしますが、当日受付にてお支払いもできます。

10. 後援 帝塚山大学